



## 「新年度に想う」

新潟県老人福祉施設協議会会長

横山けやき苑施設長 近藤和義

皆様、連日の業務本当にご苦労さまでございます。

昨年は、介護基盤整備あるいは介護職員処遇改善交付金等で、私たちを取り巻く環境が大きく変化し始めた年でありました。介護業界については様々な表現がなされていますが、これによって職場環境や労働条件が少しでも改善され、私たちが自分の職場に対して今まで以上に誇りと働きがいを持つ様になれば、それは素晴らしいことだと思います。

今年の研究大会は、第2ブロックの新潟市で行われる予定でございます。

また、今年のテーマは、「生きがい、働きがいのある福祉社会を目指して」といたしました。これは、未だ十分とは言えないまでも環境の整備が進みつつある中で、今一度介護の原点に立ち返り、利用者の皆様や私たちにとって本当の意味での生きがい、働きがいとは何かという事について改めて考えて見るよい機会ではないかと思うことからでございます。

利用者の身体的機能は年々低下いたしますが、利用者と私たちの間の信頼関係があれば、仮にそうであっても利用者の感謝の念は変わらないと思います。私たちも、利用者に感謝され利用者が生きがいを感じられるようになれば、それが働きがいになるのではないかと思います。もちろん現場は言葉で言うほど単純な世界ではないことも承知した上ですが、基本はそこにあるのではないのでしょうか。1日最低5回は笑いなさい、と言われる。回数とはかく、必要なことは笑顔を決やさないと言うことであり、私たちの笑顔が好循環を生むことによって、明るい職場、魅力ある職場が創造されるのではないのでしょうか。

この季刊誌が皆様のお手元に届く頃には鬱陶しい梅雨の時期になっていると思いますが、お互いに明るい職場環境の下で、生きがいや働きがいのある人生を過ごしたいものです。環境はやってくるものではなく作り出すものです。私たちの周りを見渡して、「これは変えなくてはならないもの、これは変えてはならないもの」を良く見極め、今まで以上に魅力ある職場になるようお互いにがんばって行こうではありませんか。終わりに、皆様と皆様のご家族のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げます。

## Contents

|                  |   |
|------------------|---|
| 老施協会長挨拶.....     | 1 |
| 理事・監事就任者挨拶 ..... | 2 |

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 中村ひろひこ新潟後援会決起大会・人材派遣センター ..... | 3 |
| 施設長リレーコラム .....                | 4 |



## 理事就任して思うこと



知的障がい者更生施設 緑風園  
支援課長

渡 辺 陽 一

このたび、ご承認を受けまして理事に就任いたしました。介護保険制度創設10年にあたる節目の年であり、昨年度実施された介護報酬改定や介護職員処遇改善交付金の助成等により、質の高い福祉人材の安定的な確保や施設運営に各法人、各事業所が努力されていることや、高齢者の福祉・介護サービス及び諸制度の一層の整備充実が求められていることを考えますと、身の引き締る思いがします。

さて、私ごとですが、勤務先は平成18年に新潟県のP

FI事業により県立施設から移管され、新たに開設した知的障がいのある方の入所施設です。この間、福祉サービス第三者評価を受審し、利用者の方々へのサービスの質の向上のため、業務改善を図ってきました。開設5年目を迎え、利用者お一人おひとりが生活者として、ご自身の「生活を楽しむ」ことができているのだろうか、とこれまでの取組みを振り返っているところです。

最近知人から頂いた書籍の中で、QOLの向上に「生活を楽しむ」ことは、欠くことのできないことであり、そこには様々な構成要素が存在していることが述べられていました。心身ともに健康であること、住環境が快適であること、知的な探究心が満たされていること、人と人との出会い…。一見、当たり前のようですが、障がいの有無に関わらず、幸福感に繋がることであり、福祉サービス提供の実践の成果に関わるところと考えています。

高齢者福祉に関する知識は乏しく、私に勤まるのであろうかと不安を感じておりますが、県内の高齢者福祉向上のため、職責を果たすことが出来るよう努力して参りたいと考えております。格別のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、就任の挨拶といたします。

## 就任のご挨拶



小千谷市養護老人ホーム  
園長

杵 渕 まゆみ

私は、この度5月25日の総会において、古川原理事の後任としてご承認をいただきました。

この度、理事推薦のお話をいただいた際に、非力な私に果して勤まるであろうかと不安でいっぱいでした。しかし承認いただいた今は、諸先輩のご指導をいただきながら、高齢者の福祉向上に少しでも貢献出来るよう努め

たいと考えております。また自分自身を研鑽できる機会として前向きに受け止めて臨みたいと考えておりますので、宜しくお願い致します。

私は、現在養護老人ホームに勤務しています。今、地域での生活が困難な低所得者高齢者への生活権を守る為に、私たちの役割が問われています。平成18年から入所者への介護ニーズへの対応のため、外部サービス利用型措置施設として新たなスタートをしました。しかし、利用者の状態変化への対応、職員配置等課題も残されていると感じます。また、居室についても国は、個室化を推進していますが、改修工事等の財源の問題もあり、中々進まない課題でもあります。このような養護老人ホーム特有の課題だけでなく、老人福祉全般についても、会員の皆様と共に考え、より良いサービス提供に繋げることが出来るよう微力ながら努めたいと考えております。皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。

## 監事を拝命して



新潟県福祉サービス  
第三者評価調査者

和 田 周 平

このたび、北村昭八郎監事の後任として、社団法人新潟県老人福祉施設協議会の監事を拝命いたしました。

平成12年、介護保険法が施行された年、新潟県を退職し、県社会福祉協議会に勤めさせていただき、行政とはまた違ったなかで、基本目標である地域福祉活動の基盤

づくりや福祉を支える人づくりなどの推進に努力させていただきました。

あれから10年、介護保険制度が着実に浸透し、国民の老後を支える仕組みづくりにそれなりの役割を果たしてきたと思いますが、今後、団塊の世代が加わるなど増え続ける要介護者に、介護福祉サービスの在り方も変革が求められ、これまで以上に内容が複雑化し、介護福祉を担う事業者の対応もまた、大変になるのではないかと思います。

こうしたなか、監事を仰せつかり責務の重大さを痛感いたしますとともに、皆様方のご支援を得て、微力ながら県老人福祉施設協議会の発展に尽力したいと考えております。

皆様のご格別なご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

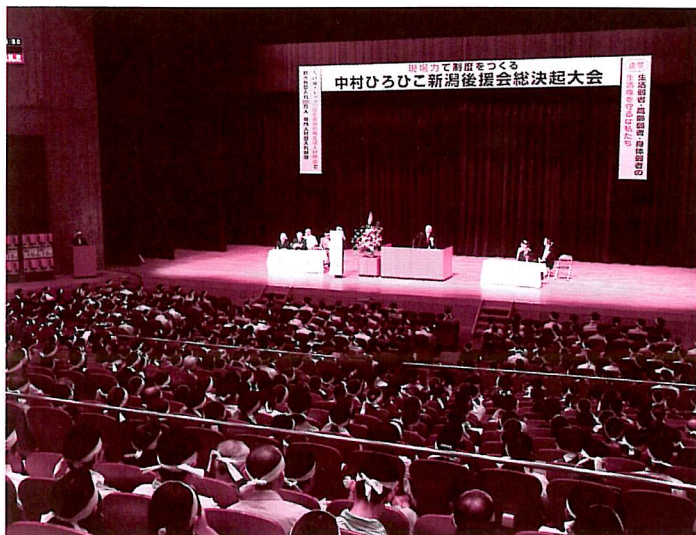


# 中村ひろひこ新潟後援会決起大会

去る6月15日(火)に、新潟テルサで中村ひろひこ新潟後援会決起大会が開催されました。会場には1,000人を超える支持者の皆様が集まり、県老協の組織力の強さを示しました。主催者、来賓(近藤会長)のご挨拶に続き、村上岩船福祉会の富樫さん、東蒲原福祉会の佐久間さん、あおりの里吉原さん(代読)の激励の後に、中村ひろひこ氏の決意表明が行われました。

その中で中村氏は、現場の力で成果を勝ち取れ、「ありがとう」を作る職業だから介護職を選んだ、入所者に喜びを与えることが大切、と訴えられた後に、福祉業界を「時代のメジャーになる」「メジャーの成長産業に育てたい」と力強く宣言されました。

変化の胎動を予感させる決意表明に、会場からは大きな拍手が鳴りやまず、一般席まで降りて名刺を配り支持を訴える独特のパフォーマンスで決起大会を締めくくりました。ご出席頂きました皆様には心から御礼を申し上げますと共に、現場の声を国政へ反映してくださる中村ひろひこ氏を、今後とも力強く応援して参りたいと考えます。



## 人材派遣センターを立ち上げました

今年は、独立の部署として人材派遣センターを立ち上げ、派遣事業を専門に行うことになりました。4月1日から新潟ユニゾンプラザの3階にセンターを開設しています。

職員は、川俣利克センター長(4月から勤務)を中心に事業所の皆様からのご要望にお応えするため連日頑張っています。今年も7月2日からご希望の事業所様へ派遣させていただきます。派遣職員の皆さんはほとんどが介護の未経験者ですが、1日も早く業務に慣れて資格を取得したい、あるいは経験を積みたいと言う意欲にあふれています。皆様の暖かいご支援をお願い致します。また、派遣のご要望がございましたら、いつでもお気軽にご相談下さい。



写真左から、事務担当 長谷川 佳世  
副会長 吉澤 善明  
会長 近藤 和義  
副会長 市井 栄吉  
センター長 川俣 利克  
事務担当 小菅 麻里絵





穂波の里は「人権尊重」と「福祉のまちづくり」を目標に住民運動で開設されてから17年目を迎えました。私が施設に寄せていただいてから6年目になります。開設当時から頑張ってきた先輩方と地域の皆様が共同で築き上げてきた穂波の里が「安心のよりどころ」として着実に地域と繋がっていることを強く感じてきました。そして、この歴史を次の世代に継続させていくことが大切だと考え、研修を担当しながら日々勉強させていただいているところです。

研修は、施設の基本理念に沿って、人権尊重の援助を実践できることと、社会的視野をもてる職員として成長できることを目標にすすめられてきました。入職1年目～4年目の制度研修は、①高齢者の生活を知る地域訪問 ②ボランティアさんとの体験交流 ③法人内の他職場実習 ④ご利用者の生活歴、ご家族の背景を知る聞き取り調査 等、出向いて地域の生活を知る機会を大切にしています。また、全入居者が参加する会の活動の他に、お一人お一人の思いを大切に個別希望にも応えながら職員自身も一緒に楽しめる援助に取り組んでいます。そんな中から100歳以上の方7名（80名中）を対象にした長寿会でお饅頭とケーキを前にした105歳の笑顔を紹介させていただきました。皆様の長生きの

秘訣をお聞きしたら、くよくよしない、のんびりする、おいしいものをたくさん食べるとのこと、私もそうありたいと思います。

今年は、地域密着型特養と認知症デイサービスの新規事業の来年2月開設に向けて多数の新入職員を迎えることができました。特養では職員の3分の1が新人となり指導する中堅も大変な状況ですが、これを機に、今年は大いに学習・研修をすすめようと予算も倍加し、今まで実施できなかった他施設研修も含め、各職場の課題に沿って研修計画づくりをすすめているところです。皆様の施設へ見学に何うお願いをさせていただいた時は、どうぞよろしくお願いいたします。



## 編集後記

深夜にワールドカップサッカーを観戦する方も多いと思います。たかがサッカーと思っても、日本が勝利すると不思議に顔がほころびます。何となくやる気が出てくるのが不思議ですね。手を使えないスポーツなんか不公平だ、などと言いながらサッカーを馬鹿にしていたのですが、そのスピードとパワーは大に見直しました。やはり最後は、何が何でもゴールするぞと言うガッツと、ここ一番の集中力がものを言うのでしょう。私たちの人生にもそのような瞬発力を必要とする局面と、コンスタントに前進する持続力を必要とする局面があると思います。いずれを問いませんが、今年の研究大会の講演は、鎌田實氏の「地域で命を支える介護」、二宮清純氏の「勝者の思考法」です。

両氏の講演の中に、人生のいろいろな局面でいかに対処するかに関するヒントがあると思います。それが私たちの生きがい・働きがいのある人生につながれば嬉しいですね。